



眼科
部長

栗本 雅史

特色

白内障、緑内障、網膜硝子体疾患、神経眼科疾患などの幅広い分野でバランスのとれたきめ細かい診療を行っており、常勤医師 4 名、非常勤医師 2 名、視能訓練士 5 名をはじめとするスタッフも充実しています。白内障手術、硝子体手術、緑内障手術、など各種の手術を行っており、いわゆる common disease の大半は当科で診断から治療まで可能となっています。

一方で、加齢黄斑変性、緑内障の最重症例、緑内障難治症例に対するロングチューブシャント手術、涙道手術、眼瞼下垂手術、斜視手術、重症の角膜疾患、眼窩腫瘍など高度に専門的で症例を集約化する必要がある疾患については大学病院（京大、府立医大）と連携しています。最近では緑内障の一部の症例はバプテスト眼科長岡京クリニックに、眼瞼下垂などの眼形成手術については当院形成外科やオキユロフェイシャルクリニックにお願いすることもあります。

当科での片眼白内障手術につきましては個別の患者さんの事情に対応できるよう日帰り外来手術、1泊（手術当日に入院）、2泊（手術の前日に入院）と様々なパターンに対応しています。緑内障手術の中でも MIGS（ μ LOT、suture LOT）およびプリザーフロマイクロシャント手術、トラベクレクトミーについては当科で対応しています。また、硝子体手術については全例 25G システムによる極小切開手術（MIVS）を施行しており、網膜剥離、黄斑前膜、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症など一般的な疾患で良好な治療成績をあげています。

診療内容

対象疾患	具体的傷病名
網膜硝子体疾患	増殖糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑前膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症
水晶体疾患	難手術が予想される各種白内障、水晶体脱臼、眼内レンズ脱臼
神経眼科疾患	視神経炎、各種視神経症、眼球運動障害、眼瞼下垂、瞳孔異常
緑内障	緑内障、続発緑内障、急性閉塞隅角緑内障（急性緑内障発作）
ぶどう膜疾患	虹彩炎、サルコイドーシス、原田病、ベーチェット病、その他
前眼部疾患	結膜炎、霰粒腫、麦粒腫、眼瞼炎、加齢性眼瞼下垂、内反症、角膜炎、角膜潰瘍、涙液分泌減少症
斜視・弱視	外斜視、内斜視、弱視（斜視手術については大学病院などへ紹介となります）

実績

入院実績（人）		主な手術件数			
年間延入院患者数	2,528	白内障	1322	硝子体	117
新患者数	739	眼内レンズ強膜内固定	24	黄斑円孔	17
外来実績（人）		緑内障（トラベクロトミー眼内法）	28	黄斑前膜	27
年間延外来患者数	17,222	緑内障（トラベクレクトミー）	12	網膜剥離	31
新患者数	248			翼状片	24
1日平均患者数	70.9				



スタッフ

医師名	役職	専門分野	専門医認定 / 資格など
栗本 雅史	部長	眼科全般、網膜硝子体	日本眼科学会専門医
吉田 祥子	副部長	眼科全般、網膜硝子体	日本眼科学会専門医
孫 春暁	医員	眼科全般	日本眼科学会専門医
板倉 友紀子	専攻医	眼科全般	
富田 香子	非常勤	眼科一般	日本眼科学会専門医
松井 淑江	顧問	眼科全般、神経眼科	日本眼科学会専門医、神経眼科相談医

地域医療機関の先生方へ

眼科手術、とくに白内障手術、硝子体手術、緑内障手術についてはいずれも高いレベルを維持しており、京都市西部地区のみならず向日市、長岡京市、亀岡市、からもご紹介いただいております。ひとえに大切な患者さんをご紹介していただく近隣の先生方のおかげと感謝しております。また外来の混雑緩和および待ち時間短縮のため、手術を終えて病状が落ち着かれましたら、ご紹介いただいた先生方のもとに術後早期でも逆紹介するようにしています。より一層地域の先生方のお役に立てるよう努めて参りますので今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

【高齢者の入院手術につきまして】

ご高齢になればなるほど入院手術をご希望されることが増えてきますが、高齢者の場合せん妄や転倒など長期入院そのものがリスクとなってしまうため、白内障手術でも4泊5日の入院で両眼とも手術してしまうプランにつきましては原則としてお断りしています。(日帰りや短期入院はもちろん対応しています。)

したがって両眼の白内障手術を「入院で」ご希望される場合、1泊か2泊の入院で片眼ずつ、すなわち2回入院していただくことになります。あるいはご高齢の方で認知症が心配な方ほど外来手術をおすすめすることになります。どうぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。